

## 中村 紘一教授 略歴及び著作目録

1942年 京都府生まれ

### 学歴

1965/03 京都大学文学部 文学科アメリカ文学専攻 卒業

1968/03 京都大学文学研究科 英語学英米文学専攻修士課程 修了

### 職歴

1968/04-1970/04 京都大学文学部助手

1970/05-1972/03 京都教育大学教育学部講師

1972/04-1976/09 京都教育大学教育学部助教授

1973/09-1974/08 アメリカ合衆国（シカゴ大学）、連合王国、スペイン、フランス、スイス、イタリア、ドイツへ出張

1976/10-1989/09 京都大学教養部助教授

1983/08-1984/07 アメリカ合衆国（ハーヴァード大学）へ出張

1989/10-1993/11 京都大学文学部助教授（アメリカ文学）

1993/07-1993/08 アメリカ合衆国（ヴァージニア大学）へ出張

1993/12-1996/03 京都大学文学部教授

1996/04-2006/03 京都大学大学院文学研究科教授

2006/2-2006/3 フランス、パリ第7大学へ出張

2006/04-2016/3 京都女子大学文学部教授（定年退職予定）

## 研究業績

### 著書（翻訳を含む）

1. トマス・ピンチョン『V.』（ゴシック叢書7）全2巻 共訳 国書刊行会 1979/02
2. リーオン・ハワード『ハーマン・メルヴィル伝記』（メルヴィル全集第1巻）国書刊行会 1981/12
3. ノエル・ベリン『読書の歓び』紀伊國屋書店 1989/08
4. 『メルヴィルの語り手たち』臨川書店 1991/12
5. 『アメリカ南部小説の愉しみ—ウィリアム・スタイロン』臨川書店 1995/12
6. エモリー・エリオット他『コロンビア米文学史』共訳 山口書店 1997/01

7. ゴア・ヴィタル『リンカーン』上・中・下 本の友社 1998/05
8. 『ロバート・ベン・ウォレン—アメリカ南部小説の愉しみ②』臨川書店 1998/08
9. エドモンド・ウィルソン『愛国の血糊—南北戦争の記録とアメリカの精神』研究社  
1998/11
10. アンジェラ・カーター「分類学者ボルヘス」渋澤龍彦他『ボルヘスの世界』国書刊  
行会2000/10
11. 「ベティの声」京都大学文学部編『知のたのしみ学のよろこび』岩波書店 2003/03
12. サイモン・カーリンスキー編『ナボコフ=ウィルソン往復書簡集』共訳 作品社  
2004/12
13. エドモンド・ウィルソン『エドモンド・ウィルソン批評集1社会・文明』共訳 みす  
ず書房 2005/05
14. エドモンド・ウィルソン『エドモンド・ウィルソン批評集2文学』共訳 みすず書房  
2005/09
15. 『アメリカ南部小説を旅する—ユードラ・ウェルティを訪ねて』京都大学学術出版会  
2008/02

#### 論文（書評を含む）

1. 「ピエールの悲劇」視界12号 1969/08
2. 「ボオの散文物語について」ALBION 16号 1970/11
3. 「『宙ぶらりんの男』と日記形式」京都教育大学紀要39号 1971/09
4. 「三つの「ベニト・セレノ」」季刊英文学9号 1972/07
5. 「Joyce Garol Oats『かれら』とかれらの間」京都大学教育紀要47号 1975/09
6. 「Ishmaelの時間感覚」英文学研究52巻1,2合併号 1975/12
7. 「『ハーツオグ』に見られるユダヤ系アメリカ人」京都教育大学紀要49号 1976/09
8. 「トリステロの謎を生むもの—トマス・ピンチョンの*The Crying of Lot 49*について」  
英文学評論37号 1977/03
9. 「メルヴィルの『詐欺師』—演技者としての詐欺師」人文24号 1978/03
10. 「『昇天』と『死刑執行』—『ビリー・バッド』の言葉」『アメリカ文学—問題と追求』  
山内邦臣編 山口書店 1979/02
11. 「“A Delicious Self-Approval” —メルヴィルの「バトルビ」の語り」日下部徳次教授  
退官記念論文集 1979/03
12. 「戯れの言葉—メルヴィルの「独身男達の天国と乙女達の地獄」について」英文学評  
論41号 1979/03

13. 「最近のMelville 短編研究」書評 英文学研究56巻1号 1979/05
14. 「Edward H. Rosenberry: Melville」書評 ALBION 25号 1979/10
15. 「“All Wars are Boyish” -メルヴィルの4つの戦争詩」英文学評論43号 1980/08
16. 「もう一人のペシミスト、アンガー-メルヴィルの『クラレル』から」菅泰男・御輿員三両教授退官記念論文集 1980/11
17. 「ハーマン・メルヴィル-シンボリズム文学の形成」『アメリカ文学の自己発見』尾形敏彦編 山口書店 1981/05
18. 「回想の楽園を求めて-メルヴィルの『オム-』覚書」英文学評論45号 1981/10
19. 「糸を紡いで-『タイピー』のために」メルヴィル全集 坂下昇訳 第1巻解説 国書刊行会 1981/12
20. 「メルヴィル『マーディ』のための1つの覚書-その「語り手」といわゆる「逸脱」の章について」英文学評論46号 1982/03
21. 「メルヴィル『レッドバーン』の語り手について-『マーディ』との関連において」英文学評論47号 1982/10
22. 「さまざまな語り口-メルヴィル『ホワイト・ジャケット』覚書」英文学評論48号 1983/03
23. 「Warner Berthoff: A Literature without Qualities, American Writing since1945」書評 ALBION 29号 1983/10
24. 「『メアリ・チェスナットの南北戦争』について」視界21号 1984/10
25. 「メルヴィル『ピエール』における田舎と都市-もう一つの多義性」『アメリカ文学とニューヨーク』松山信直編 南雲堂 1985/02
26. 「メルヴィル『オールディへの斥候』解釈-エドマンド・ウィルソンに沿って」尾形・森本両教授退官記念論文集 1985/02
27. 「報われぬ英雄イズレイル・ポッター-メルヴィルの独立戦争神話」英文学評論51号 1986/03
28. 「酒本雅之著『砂漠の海-メルヴィルを読む』」書評 英文学研究63巻1号 1986/09
29. 「『シャーロット・L・フォートンの日記-南北戦争時代の白人世界に対する若き黒人女性の反応』について」英文学評論52号 1986/10
30. 「南部棉大農園の娘と南北戦争-『ケイト・ストウンの日記』から」人文33号 1987/03
31. 「バトン・ルージュのサラ・モーガン-『南部同盟の娘の日記から』」英文学評論53号 1987/03
32. 「北部人旅行者の見たアメリカ南部-F. L. オムステッド『棉王国』覚書」英文学評

論 54号 1987/10

33. 「<女性化>されたトムとキリスト教—『アンクル・トムの小屋』について」英文学  
評論55号 1988/03
34. 「説教としての『白鯨』」ALBION36号 1990/10
35. 「千石英世著『白い鯨の中へ—メルヴィルの世界』」書評 アメリカ文学研究28号  
1992/02
36. 「星野勝利著『ハーマン・メルヴィル—奈落と星と』」書評 英文学研究 69巻2号  
1993/01
37. 「矢作三蔵著『アメリカ・ルネサンスのベシミズム—ホーソン、メルヴィル研究』」  
書評 英語青年1月号 1997/01
38. 「本を書くピエールとメルヴィル」科研費成果報告書No.0941021 1999/03
39. 「ウィルソンらしさということ」英語青年6月号 2001/06
40. 「エドモンド・ウィルソンの読んだメルヴィル」Sky-Hawk 18号 2002/07
41. 「巽孝之著『リンカーンの世紀—アメリカ大統領たちの文学思想史』」書評 英語青  
年7月号 2002/07
42. 「エドモンド・ウィルソン再考—『愛国の血糊』をめぐって」科研費成果報告書  
No.14310207 2004/03
43. 「〈テラ〉へのこだわり—フォークナー、ウォレン、スタイロン」フォークナー7号  
2005/04
44. 「エドモンド・ウィルソンとメルヴィル、ジェイムズ、ナボコフ」ALBION52号  
2006/11
45. 「エドモンド・ウィルソンのデヴォート批評」マーク・トウエイン6号 2007/04
46. 「渡部利雄著『講義アメリカ文学史「全3巻」東京大学文学部英文科講義録』」書評  
英文学研究 86巻 2009/11
47. 「“The Sense of My Continuity” —エドモンド・ウィルソンの「60歳になった著者」に  
ついて」英語英米文学論輯9号 2010/03
48. 「「60歳になった」Edmund Wilson」関西アメリカ文学47巻 2010/10
49. 「A pathからa wagon track、そして、the streetへ—ユードラ・ウェルティの「踏み慣  
れた一本道」“A Worn Path”精読(上)」英文学論叢55号 2011/12
50. 「“Innocence”の意味の転移—ヘンリー・ジェイムズ『アメリカ人』の宗教的・歴史  
的考察」共著 英語英米文学論輯11号 2012/03
51. 「A pathからa wagon track、そして、the streetへ—ユードラ・ウェルティの「踏み  
慣れた一本道」“A Worn Path”精読—(下)」英文学論叢56号 2012/12

52. 「映画『風と共に去りぬ』トリヴィア—画面に見るアメリカ南部の歴史と文化—(1)」  
英文学論叢57号 2013/12
53. 「映画『風と共に去りぬ』トリヴィア—画面に見るアメリカ南部の歴史と文化—(2)」  
英文学論叢58号 2014/12
54. 「西谷拓哉・成田雅彦編『アメリカン・ルネサンス—批評の新生』」書評 Sky-Hawk  
通巻29号 2014/12
55. 「映画『風と共に去りぬ』トリヴィア—画面に見るアメリカ南部の歴史と文化—(3)」  
英文学論叢59号 2015/12 (予定)

#### 口頭発表

1. 「映画『風と共に去りぬ』—歌と音楽—」京都女子大学秋季公開講座 講演 2015/11
2. その他、日本英文学会、日本アメリカ文学会（関西支部を含む）、京大英文学会、京女英文学会、京都女子大学公開講座等で、研究発表、シンポジウム、講演等を行なった（詳細省略）。

#### 所属学会

日本英文学会、日本アメリカ文学会、日本アメリカ学会、日本メルヴィル学会、京大英文学会、京女英文学会